



第1号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

新しい時代の新しい 農業教育の使命

公益財団法人
全国学校農場協会

理事長 日置 司明



今年には新天皇の即位に伴って元号も「令和」と改元され新しい時代への国民の期待が大きく膨らんでいます。

会員の皆様も、新らしく変わる時代への決意も新たに期待をもって出発する新社会への扉を開かれたことと思います。

それにしても平成最後の昨年は、例年になく猛暑日の連続で農作物のみならず人命に関わる被害が続出し、加えて、強烈な台風が数度

にわたって日本列島を直撃し西日本をはじめ各地での集中豪雨や洪水、また、7月には北海道が震度7の地震にみまわれ甚大な被害を蒙るなど、正に災害列島日本を観を呈した年でした。新たな新しい時代を迎えるにあたって人々が安心して生活できることを願っています。

さて、最近国際情勢が激しく変動する中であつて、我が国の農業を取り巻く状況は依然として厳しく、農業従事者の高齢化と耕作放棄地の拡大、中山間地の過疎化の進展、若年就農者の確保など深刻な問題の対応が迫られています。加えて昨年12月30日には加盟11カ国で暫定合意がなされたTPP協定が発効し、いよいよ輸入品目の95%が関税撤廃の対象となることとなります。今後は安価な農作物の輸入が急速に拡大し、国内農業への影響が懸念されています。

また、近年は、食料や健康安全、環境や衛生などに對する関心が国際的な高ま

りを見せ、それを監視・規制するGAPの世界的認証の取得が強く求められるようになってきました。さらに科学技術の進展も著しく、農業もこれまでの自然条件や経験の蓄積の中から構築してきた知識や技術に頼った農業から大きく変わろうとしています。

AIやロボット、ドローンによる生産管理や監視システムの導入、また完全自動化栽培システムを備えた野菜工場の普及と企業の農業参入など、今や人が出来る仕事を探さなければならぬほどに高度な最先端技術を導入した農業の普及が急速に進んでいます。

これからは、このように変化の激しい農業環境や産業・経済活動に的確に対応できる新しい農業生産技術や経営感覚を身に付け、将来の日本農業を担う人材を育てることは農業教育が果たす当然の役割です。

そのためには指導に当たる教師一人一人が変化の著しい農業の未来を展望し、これからの農業人に必要な

資質・能力として今何を教え、何を身に付けさせなければならぬかを明確にして、それを確実に習得させる教育を徹底して推進することが何より肝要であると考えます。農業高校で学ぶ生徒たちは3か年の農業の学習を通して必ず自分の将来は拓けるものと信じて学校生活を送っています。その期待に応えることは農業教員に課せられた重大な使命であると思います。農業教育の最前線にいる先生たちが厳しい現状に負けてしまったり、逃げ腰になつてはなりません。生徒たちは動物的な感覚をもって先生そのものの気概や姿勢を受け止めるからです。指導に当たる目の前の先生が、農業の将来に明るい希望と展望を持つていないと知って生徒が農業学習に意欲をもって取り組み、将来に明るい希望を持つてはなりません。背中で教育する。という言葉があります。教師が農業の将来に希望を持って取り組み常に前向きな気持ちと情熱をもって指導に当たれ

ば生徒は必ずその気持ちに
応えてくれます。

公益財団法人全国学校農
場協会は、これからも会員
の日常の教育実践への支援
に全力で取り組んで参りま
す。また、国際社会の動向
と農業をはじめとする産業
経済市場の変化を直視し、
我が国の農業の啓発と振興
並びに農業教育の充実・発
展に対応した事業を推進し
て参ります。今後とも会員
の皆さんの御理解とご協力
をよろしくお願いいたしま
す。

平成30年度 農業教育功労者表彰 受賞者紹介

長年にわたる農業教育への
御尽力に感謝いたします。
功労者表彰受賞者(敬称略)

*東北支部

古館行雄 木村亨 阿部 修
三 蕪木信夫 近藤修三 熊
谷一文 佐々木英一 佐久間

秀夫 高橋昭久 紺野俊一
増子利治 馬場芳孝

*関東支部

岡本利隆 徳田安伸 鈴木一
志 江原洋一 鳥海勝彦
竹本正弘 久保成司 小林勝
櫻井理平 近藤芳裕 松本守
松崎美幸 中田勝三 卯花清
廣木弘美 青砥武夫 埴孝
之 木嶋宗一 藤枝操 林
覚 高橋啓二 新井聖司 筒
井孝広 鈴木久雄 亀井忠文
小川博明 望月宣彦 和田悟
神谷静明 藤崎勝巳

*北信越支部

涌井義春 風間卓 渡辺良樹
佐々木寛明 遠山市郎 小山
正道 関弥文 鈴木康 嶋崎
文男 黒澤清治

*近東支部

山口晋平 平川富久 今井孝
村瀬貴久 小松久文 富田誠
人 山田恵一郎 丹羽俊文
長縄正治 原敏明 坂倉忠男
三松正 前川隆 三林真弓
饗場忠佳 加藤浩一 片山一
平 山中成夫 山本裕範
城崎勝平 水口清司 北乃
坊勉 真鍋政明 上村修二

北浦茂弘 石川和子 入口望
大森正勝 松島敏春 安積俊
之 増田義文 西畑隆 平田
元 花岡重之 中西康治

*中国支部

阿部晃 山崎喜秀 澤田裕二
太田宏明 錦織彰徳 小見山
昌夫 玉木邦彦 岡田堅 松
永悦夫 四方田道年 神尾守
木庭一郎 池田克郎 長井龍
夫 繁山信治 河口清信

*四国支部

安永潔 川田安彦 奥野勝也
倉橋孝 玉井修二 平内修
樽島博幸 田中彰治

*九州支部

村瀬雅之 泊義隆 高田潤一
大館直二 本山信夫 田坂義
文 赤瀬康 上田正光 田廻
克則 進藤睦 後藤至成 佛
崎智夫 石川正行 田中清春
桐谷弘 梅本重幸 吉田栄三
小島雄二 黒木伸之 上池正
光 田廻克則 進藤睦 後藤
至成 佛崎智夫 石川正行
田中清春 桐谷弘 梅本重幸
古田栄三 児島雄二 黒木伸
之 上池恭廣 川端勝也 東
房男 常秀樹 岳一孝

第63回 実験実習講習会 実施予定

北海道地区

令和元年7月29日から8月

東北地区

令和元年7月29日から8月

関東地区

令和元年8月5日から8月

近東地区

令和元年8月19日から8月

中国地区

令和元年8月19日から8月

九州地区

令和元年8月5日から8月

令和元年8月5日から8月
9日「野菜・農業機械」
会場 大分県立農業大学校



東京農業大学

TOKYO UNIVERSITY OF
AGRICULTURE
〒156-8502東京都目黒区農大1-1-1
www.nodal.ac.jp

農学部

応用生物科学部

生命科学部

地域環境科学部

国際食料情報学部

生物産業学部

2018年4月 新たに2学科が新設

農学部 生物資源開発学科

農業の基盤となる「生物多様性」をキーワードに、持続可能な社会を実現する。

デザイン農学部

生き物や農畜産物に眠る「機能性」。それらを利用して豊かな未来を設計する。